
絶対一級建築士になる ～カド番落ちでもあきらめない～

— 一級建築士 —

1. 受験の動機・経緯

タイトルのとおり、私はカド番落ち（学科試験の再受験が免除される3回目の製図試験で不合格となること）を経験し、再度学科試験に合格してから、2回目の製図試験でようやく合格することができました。

とても長い道のりでしたが、資格学校への通学や、通信講座、独学など様々な経験をすることで、自分にあった学習方法を確立し、最終的には学科、製図ともに独学で合格することができました。これまでの経験を整理し、お伝えすることで、これから受験を考えている方や受験生の方の参考になれば幸いです。

2. 様々な学習方法

一級建築士試験は、相当な学習量や学習時間の確保が必要となります。また、試験は1年に1回のため、仕事や生活とのバランスを図りながら、厳しい学習を継続する根気や環境も必要です。

このような状況の中で、まずは自分にあった学習方法を確立することが重要です。

まず、資格学校への通学は、高額な費用が掛かるとともに、生活も学習最優先となり、受験に向けて相当の準備と覚悟が必要ですが、良質な教材や自分の弱点に合わせた指導を受ける

ことができるメリットがあります。また、毎年7月の学科試験と10月の製図試験に向けて綿密なスケジュールが組まれており、目標管理が苦手な方やストレート合格を目指す方におすすめです。

次に、資格学校やインターネットの通信講座です。通信講座は、通学ではないため自ら学習計画を立てる必要がありますが、一般には販売していない教材が、通学と比較して安価に入手できたり、講座によっては模試や添削を受けることができるメリットがあります。受験費用は抑えたいが、新傾向問題や課題に対応したい方や、仕事や生活とのバランスを考えた学習を望む方へおすすめです。

最後に独学ですが、通信講座と同様に自ら学習計画を立てる必要があるとともに、新傾向の問題や課題に対応できない不安はあります。しかし、市販の過去問題集（過去7年分など）や製図の課題集などで、学習が可能です。初受験者よりも、試験概要や出題傾向を把握した受験経験者におすすめです。

このように、様々な学習方法があるので、職場や生活環境をはじめ、ご自身の学習スタイルなど様々な要素を勘案して検討することで、自分に合った学習方法がきっと見つかるはずです。

3. 傾向と対策

前述した様々な学習方法を経験した上で、学習のベースとして大切にしてきたことを学科試験と製図試験別にご紹介します。

学科試験編

過去問を中心に学習を進めている方は、新傾向問題に対する不安が大きいかと思います。しかし、新傾向とはいうものの、過去問のリニューアル問題が多々あることも事実です。難易度が高い試験ではありますが、そこは資格試験と割り切り、過去問を繰り返し解いていくことが合格への近道となります。私の場合、問題ごとに解いていくと解答番号を暗記してしまうため（試験は四枝択一）、1枝ずつ解いていき、間違えた枝については問題集の解説や参考書を参照することで、知識の定着を図りました。特に法規と構造は問題数も多く、得点源となるので、早い時期から学習に着手すると効果的かと思います。知識が定着していくと、4枝のうち2枝まで容易に絞ることができる感覚が身につけていきます。これだけでも時間短縮になり、焦りからくるミスを防ぐことができます。

製図試験編

普段の学習においては、練習課題の解答例を暗記するほどトレースしていました。これにより、ある程度の標準プランが確立され、あとは要求事項に応じて変化させることで、素早くプラン検討を行うことができました。また、繰り返しトレースすることで作図時間も短縮されていきます。なお、プラン検討にあたっては受験生の多くが採用するような多数派のプランに近づけることが第一ですが、課題文から要求事項の優先順位を読み取る練習も大切です。

私の場合、合格した年の本試験時に、外部と



川西市 都市政策部 都市政策課
主任

かくた けいち
角田 啓一

（取得した資格：一級建築士）
（資格取得年度：平成30年度）

の出入口の位置の都合上、どうしても利用者と管理者の動線の一部が交差してしまうプランになってしまいました。再度プランを練り直す時間はなく、そのまま押し切るか非常に悩み、手が止まってしまいました。しかし、もう一度課題文を読み直したところ、出入口側の周辺環境との連続性確保の優先順位が高いことが改めて読み取れたことから、最初のプランのままを進める判断ができました。

4. おわりに

資格について、職務上必須の場合もあれば、そうでない場合もあり、受験に対するモチベーションはそれぞれだと思います。しかし、建築技術者として生きていく上で、一級建築士の資格が無駄になることはありません。私の場合は、長年目標にしてきた一級建築士を取得することができ、大きな自信を得ることができました。

最後に、この場をお借りして、試験勉強にご協力いただきました職場の方にお礼を申し上げます。また、最後まで応援してくれた家族に感謝しています。